

平成 29 年度 行政経営方針のポイント

1 基本的な考え方

(1) 第六次総合計画改訂版の総括

- 超高齢社会と人口減少社会が現実のものとなり、多様化・高度化する行政課題への的確な対応が迫られている。
- 計画期間の最終年度となる平成 29 年度は、人口減少の克服と地域の活性化に向けた地方創生の取り組みに併せて第六次前橋市総合計画改訂版に位置づけた事業の総括を行い、各事業の効果検証及び次期総合計画へ盛り込むべき事業の検討を行う。

(2) 市政運営における重点施策の選定

目指すべき将来都市像「生命都市いきいき前橋」の実現に向け、予算編成との連動を図りながら、平成 29 年度における市政の重点施策を選定し、「選択と集中」や「成果志向」の視点に立った先見性ある行政経営の仕組みを構築する。

2 平成 29 年度 行政経営方針

「暮らしの質感の向上」、「稼ぐ力の創出」、「官民連携」の 3 施策を重点施策に選定し、特に力点を置いて取り組む。

市民の英知とともに、未来の芽を育み、発信よう

重点施策 1 市民サービスの充実により、「暮らしの質感」を高めます

- 子育て世代包括支援センター（まえサポ）を中心とした「切れ目のない子育て支援」
- 地域寺子屋や赤城山ろく里山学校による「地域と密着した教育の充実」
- 健康づくり事業と介護予防活動を通じた「健康寿命の延伸」
- 医療・介護・福祉の連携による「地域包括ケアシステムの構築」
- マイナンバー制度と連携した「ICT の活用によるまちづくり」
- 地域公共交通ネットワークの再構築と連動した「都市のコンパクト化」

重点施策 2 市民のやる気をサポートし、「稼ぐ力」を生み出します

- ジョブセンターまえばしや前橋市創業センターを拠点とした「就労・創業支援」
- 農業者の所得向上に向けた、赤城の恵ブランドをはじめとする「6次産業化支援」
- 地域特性を生かした新エネルギー導入による「エネルギーの地産地消」

重点施策 3 「官民連携」のもと、まちの姿を変えていきます

- DMO との連携やスローシティの推進による「赤城山の魅力の再発見」
- 広瀬川河畔の整備や民間主導の再開発を通じた「中心市街地の再生」
- 日赤病院跡地のまちづくりを核とする「生涯活躍のまちの実現」
- 市内外からの人の流れを生み出す魅力の発信拠点「新たな道の駅の設置」